

出会いが生んだ施術用品

コスミックエムイー（川口市）

溶接…小児鼠径ヘルニア手術に用いる、スリットを入れた新発想のニードルキットの開発

日本では毎年2万人の小児が鼠径（そけい）ヘルニアに罹患するといわれており、今までは開腹による手術が主流だった。しかし、開腹による切除手術は傷跡が残るので、日本では小児に施すのを嫌がる家族が増えている。

現在、小児鼠径ヘルニア

罹患者の20～30%がメスによる開腹をしない腹腔鏡を用いての施術になってきているが、今後この傾向は増える予想されている。その腹腔鏡手術の際に用いるニードルキットを作っている会社は国内では1社、ただ、従来品では糸が筋肉などに引つ掛かってし

まうという指摘があった。

そこで3種類の針を組み合わせて使うことによつて、医師がより手軽に操作でき、傷跡も小さくて済むという写真のニードルキットを作製した。

今まで主に医療電子機器の開発製造を手掛けてきた同社としては、ニードルキットの製造は初の試みで、新規事業として販売ま

でを行う。

このニードルキットは、3年前の「さいたま医療ものづくりフォーラム」でさいたま市立病院名誉院長の遠藤昌夫氏との出会ったことが開発の切っ掛けとなった。長年で培われたものづくり技術が、世の需出と合つて研磨された好例だろう。



前の針のループのところに糸を通して針を抜き、管子でつかんで別の針で外に出し、結ぶ

【株式会社コスミックエムイー】

本社は川口市芝下2-31-3。五十嵐光夫代表取締役社長。1986年設立で30年以上にわたり医療電子機器の設計・製造・修理等を行ってきた。特に電子制御部品の開発、とりわけ回路設計および組み込みソフトウエア開発に高い評価あり。今回の事業では、自社製品の販売も初めて手掛ける。